

## 著作奨励賞

渡部瑞希著『友情と詐欺の人類学—ネパールの観光市場タメルの宝飾商人の民族誌』

(晃洋書房 2018年2月)

### <講評>

本書は、ネパールの首都カトマンズのタメル地区で活動する宝飾商人に焦点を当て、観光市場で作られる親密性（ここでは友情）と経済的な取引との関係を探求するものである。筆者は、インド人の宝飾商人らとともに宝石販売を体験しながら、この宝飾商人たちが筆者に教授する販売方法、商人たちがツーリストを対象とする宝石販売の様子やツーリストとの相互関係を観察した。筆者は、このようなフィールドワークを通じ、タメルで活動するインド人の宝飾商人が「フレンド」としての関係を宝石の詐欺的な販売に利用するような状況がある一方で、利害関係を越えた親密性を構築するケースも見出していく。この状況について、筆者は、マキャネルやブーアスティンの真正性をめぐる議論を批判的に検討しつつ、ゲストが求める真正性とは、観光対象ではなくホストによるゲストへの態度であるという視点から、宝飾商人とツーリストとの間の商取引を含む相互関係をとらえようとした。したがって、宝飾商人とツーリストの関係においては、販売する宝石が本物かどうかそのものではなく、宝飾商人とツーリストの互いへの態度が問題となる。また、筆者は、パーソン／ペルソナ論をジンメル「公然に秘密」の議論と結び合わせながら、「フレンド」として行為する人々が見せる顔を「親密さの仮面」と定義し、宝石商人とツーリストの関係に適用し分析を進めた。宝飾商人とツーリストの間の「フレンド」の関係が利害を越えた真の友情関係とよべるものになるかといった点について、本書の結論は明確ではないが、「仮面」の概念の有効性を示し、観光地における事業者とツーリストの関係を考察する手がかりを提供したと言える。

ただ、観光研究を中心とする本学会の賞を授与するにあたって、気になる点もある。それは、本書の中心テーマが観光ではなく、経済的取引と人間関係に主眼が置かれているという点である。観光はこうした関係の舞台設定の一要素として扱われているという印象を受けた。しかし、本書は、観光地における商取引と人間関係の相互作用について貴重な知見を与え、観光研究に貢献するものと考えられる。また、十分な学術的な水準を持つことから、著作奨励賞を受けるのにふさわしい書籍と判断した。